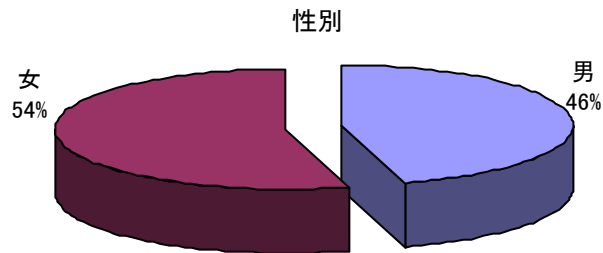


住民アンケート調査結果

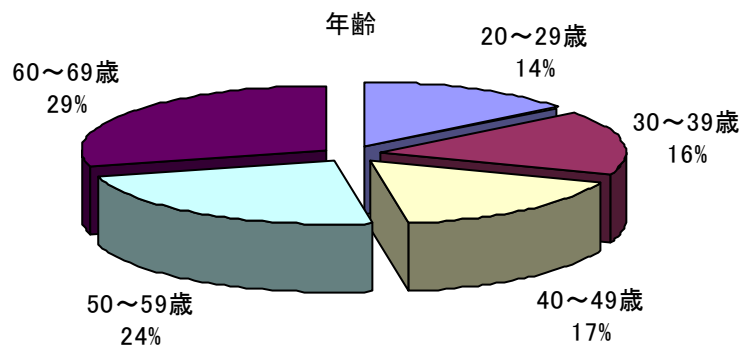
(ア) あなたの性別は

	平成17年度		平成9年度	
	計	構成比	計	構成比
男	203	44.3%	322	48.9%
女	243	53.1%	321	48.7%
無回答	12	2.6%	16	2.4%
総計	458	100.0%	659	100.0%



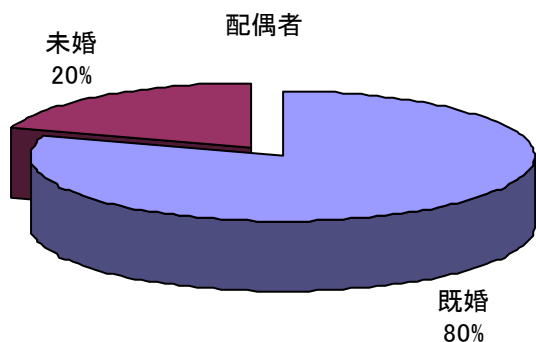
(イ) あなたの年齢区分は

	平成17年度		平成9年度	
	計	構成比	計	構成比
20～29歳	66	14.4%	117	17.8%
30～39歳	74	16.2%	133	20.2%
40～49歳	77	16.8%	125	19.0%
50～59歳	108	23.6%	131	19.9%
60～69歳	133	29.0%	151	22.9%
無回答	0	0.0%	2	0.2%
合計	458	100.0%	659	100.0%



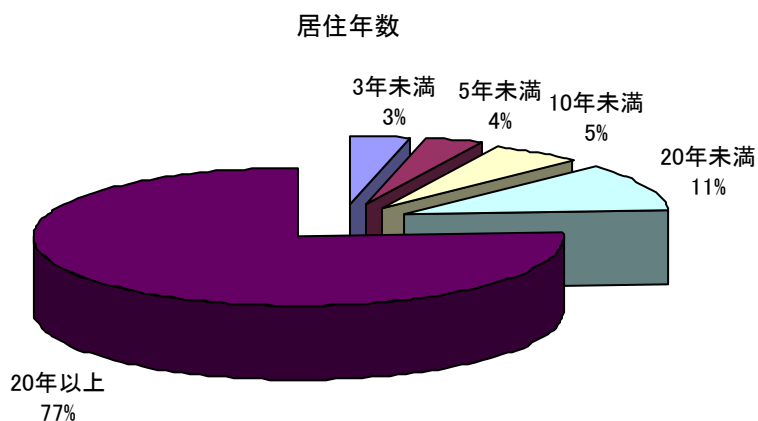
(ウ) あなたは結婚していますか

	平成17年度		平成9年度	
	計	構成比	計	構成比
既婚	366	79.9%	540	81.9%
未婚	91	19.9%	116	17.6%
無回答	1	0.2%	3	0.5%
	458	100.0%	659	100.0%



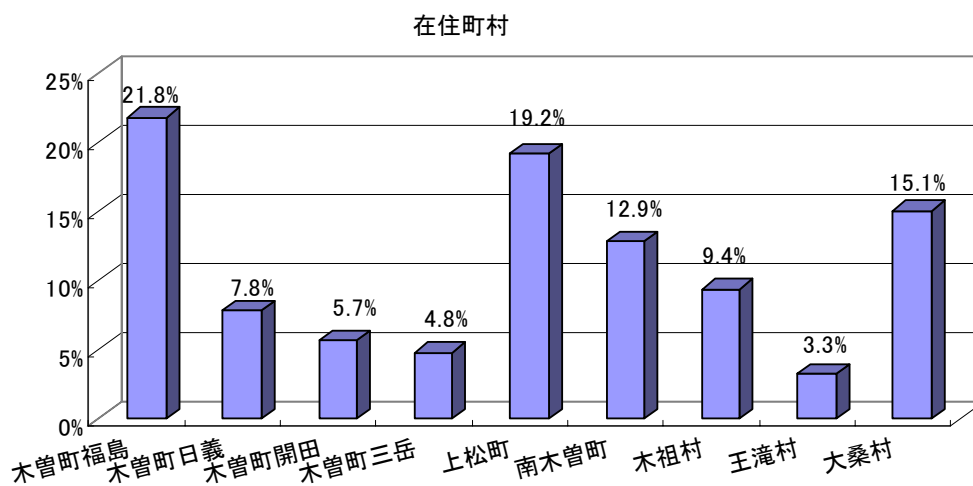
(エ) あなたは、木曾地域に引き続き何年住んでいますか

	平成17年度		平成9年度	
	計	構成比	計	構成比
3年未満	16	3.5%	33	5.0%
5年未満	17	3.7%	14	2.1%
10年未満	25	5.5%	34	5.2%
20年未満	51	11.1%	64	9.7%
20年以上	349	76.2%	509	77.2%
無回答	0	0.0%	5	0.8%
合計	458	100.0%	659	100.0%



(オ) あなたの住んでいる町村はどこですか

	平成17年度		平成9年度	
	計	構成比	計	構成比
木曾町福島	100	21.8%	121	18.4%
木曾町日義	36	7.8%	49	7.4%
木曾町開田	26	5.7%	21	3.2%
木曾町三岳	22	4.8%	31	4.7%
上松町	88	19.2%	107	16.2%
南木曾町	59	12.9%	91	13.8%
木祖村	43	9.4%	49	7.4%
王滝村	15	3.3%	20	3.0%
大桑村	69	15.1%	83	12.6%
旧檜川村	0	0.0%	59	9.0%
旧山口村	0	0.0%	25	3.8%
無回答	0	0.0%	3	0.5%
合計	458	100.0%	659	100.0%



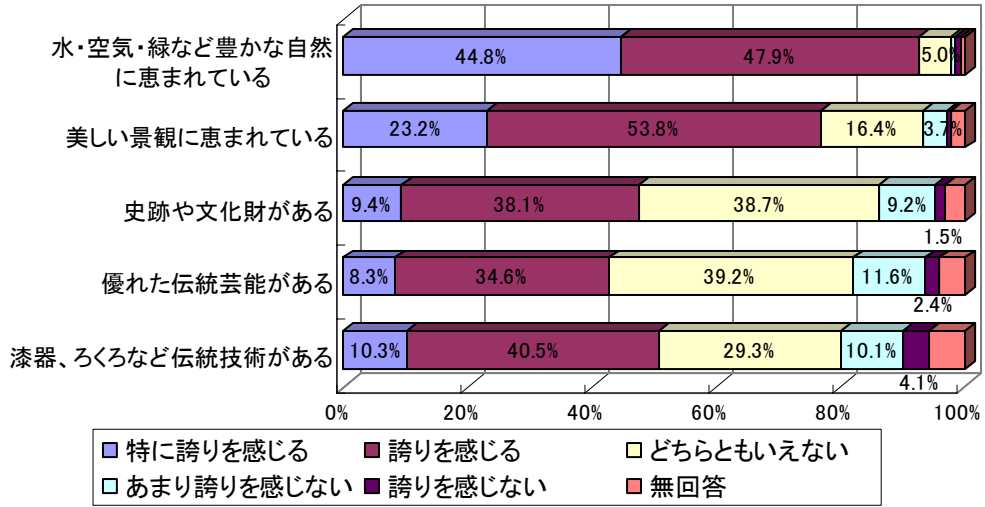
(1) あなたは木曾のどのようなところに誇りを感じますか

「1. 特に誇りを感じる」と「2. 誇りを感じる」と答えた人の割合が60%を超える項目を抽出すると、「自然に恵まれている」(92.7%)「美しい景観に恵まれている」(77.0%)であり、多くの方が自然的資源を木曾地域のブランドイメージとして捉えている。またその割合は前回(平成9年度)調査時とほとんど変わらない。「史跡や文化財がある」(47.5%)や「優れた伝統芸能がある」(42.9%)、「伝統技術がある」(50.8%)といった人文的要素は相対的に重要度が低い結果となった。

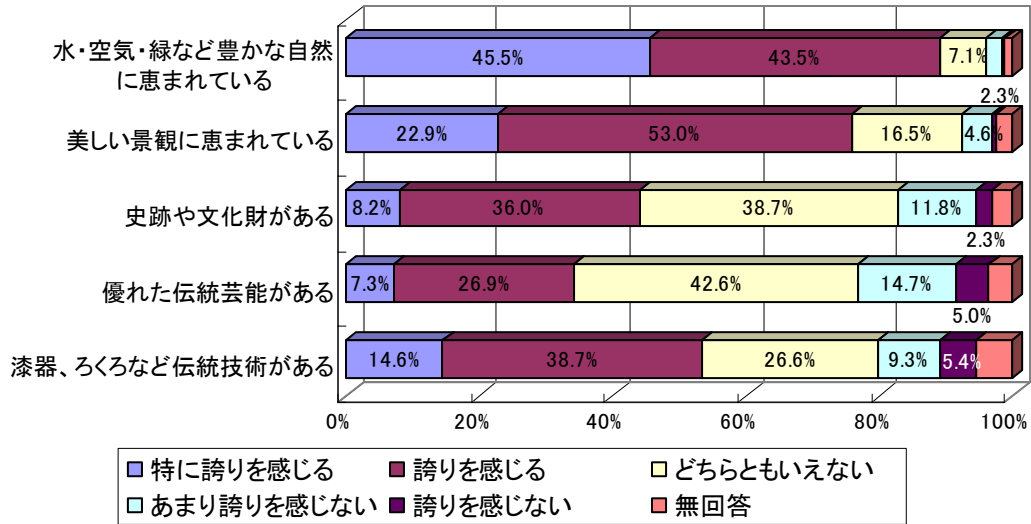
		1	2	3	4	5	無回答	合計
水・空気・緑など豊かな自然に恵まれている	平成17年度	205 44.8%	220 47.9%	23 5.0%	3 0.7%	4 0.9%	3 0.7%	458 100.0%
	平成9年度	300 45.5%	287 43.5%	47 7.1%	15 2.3%	3 0.5%	7 1.1%	659 100.0%
美しい景観に恵まれている	平成17年度	106 23.2%	247 53.8%	75 16.4%	17 3.7%	3 0.7%	10 2.2%	458 100.0%
	平成9年度	151 22.9%	349 53.0%	109 16.5%	30 4.6%	4 0.6%	16 2.4%	659 100.0%
史跡や文化財がある	平成17年度	43 9.4%	175 38.1%	177 38.7%	42 9.2%	7 1.5%	14 3.1%	458 100.0%
	平成9年度	54 8.2%	237 36.0%	255 38.7%	78 11.8%	15 2.3%	20 3.0%	659 100.0%
優れた伝統芸能がある	平成17年度	38 8.3%	158 34.6%	180 39.2%	53 11.6%	11 2.4%	18 3.9%	458 100.0%
	平成9年度	48 7.3%	177 26.9%	281 42.6%	97 14.7%	33 5.0%	23 3.5%	659 100.0%
漆器、ろくろなど伝統技術がある	平成17年度	47 10.3%	185 40.5%	135 29.3%	46 10.1%	19 4.1%	26 5.7%	458 100.0%
	平成9年度	96 14.6%	255 38.7%	175 26.6%	61 9.3%	36 5.4%	36 5.4%	659 100.0%

1 特に誇りを感じる 2 誇りを感じる 3 どちらともいえない 4 あまり誇りを感じない 5 誇りを感じない

木曽地域のどこに誇りを感じるか(平成17年度)



木曽地域のどこに誇りを感じるか(平成9年度)



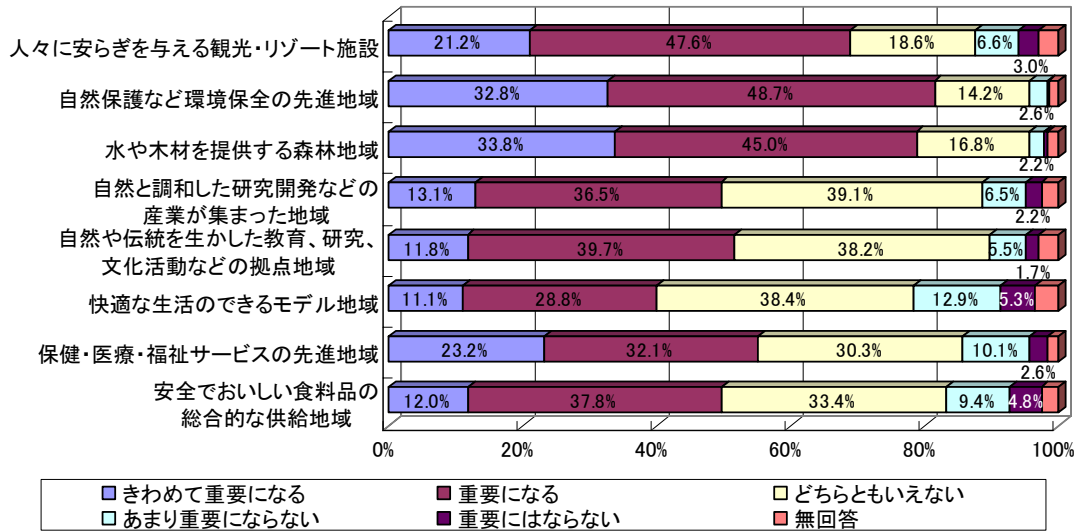
(2) これから木曽地域が日本や長野県の中で果たす役割として次にあげる事項はどの程度重要になるとお考えですか

「1. 特に重要になる」と「2. 重要になる」と答えた人の割合が60%を超えるものを抽出すると、「環境保全の先進地域」(81.5%)、「森林地域」(78.8%)、「観光・リゾート施設」(68.8%)となり、木曽地域が自然環境と共生できる観光交流の拠点を担う地域となることが期待される。

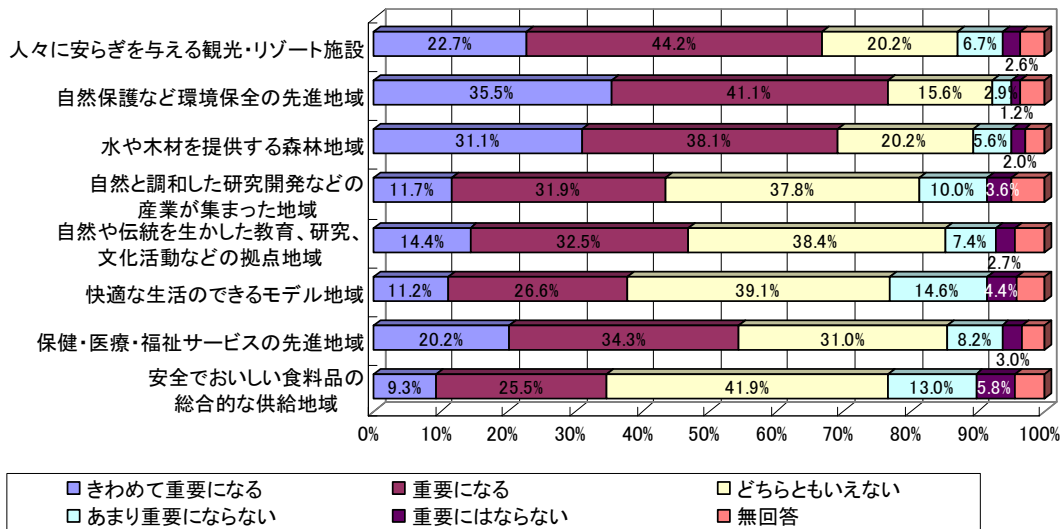
		1	2	3	4	5	無回答	合計
人々に安らぎを与える観光・リゾート施設	平成17年度	97 21.2%	218 47.6%	85 18.6%	30 6.6%	14 3.0%	14 3.0%	458 100.0%
	平成9年度	150 22.7%	291 44.2%	133 20.2%	44 6.7%	17 2.6%	24 3.6%	659 100.0%
自然保護など環境保全の先進地域	平成17年度	150 32.8%	223 48.7%	65 14.2%	12 2.6%	1 0.2%	7 1.5%	458 100.0%
	平成9年度	234 35.5%	271 41.1%	103 15.6%	19 2.9%	8 1.2%	24 3.7%	659 100.0%
水や木材を提供する森林地域	平成17年度	155 33.8%	206 45.0%	77 16.8%	10 2.2%	2 0.5%	8 1.7%	458 100.0%
	平成9年度	205 31.1%	251 38.1%	133 20.2%	37 5.6%	13 2.0%	20 3.0%	659 100.0%
自然と調和した研究開発などの産業が集まった地域	平成17年度	60 13.1%	167 36.5%	179 39.1%	30 6.5%	10 2.2%	12 2.6%	458 100.0%
	平成9年度	77 11.7%	210 31.9%	249 37.8%	66 10.0%	24 3.6%	33 5.0%	659 100.0%
自然や伝統を生かした教育、研究、文化活動などの拠点地域	平成17年度	54 11.8%	182 39.7%	175 38.2%	25 5.5%	8 1.7%	14 3.1%	458 100.0%
	平成9年度	95 14.4%	214 32.5%	253 38.4%	49 7.4%	18 2.7%	30 4.6%	659 100.0%
快適な生活のできるモデル地域	平成17年度	51 11.1%	132 28.8%	176 38.4%	59 12.9%	24 5.3%	16 3.5%	458 100.0%
	平成9年度	74 11.2%	175 26.6%	258 39.1%	96 14.6%	29 4.4%	27 4.1%	659 100.0%
保健・医療・福祉サービスの先進地域	平成17年度	106 23.2%	147 32.1%	139 30.3%	46 10.1%	12 2.6%	8 1.7%	458 100.0%
	平成9年度	133 20.2%	226 34.3%	204 31.0%	54 8.2%	20 3.0%	22 3.3%	659 100.0%
安全でおいしい食料品の総合的な供給地域	平成17年度	55 12.0%	173 37.8%	153 33.4%	43 9.4%	22 4.8%	12 2.6%	458 100.0%
	平成9年度	61 9.3%	168 25.5%	276 41.9%	86 13.0%	38 5.8%	30 4.5%	659 100.0%

1 極めて重要になる 2 重要になる 3 どちらともいえない 4 あまり重要にならない 5 重要にならない

木曽地域の果たす役割(平成17年度)

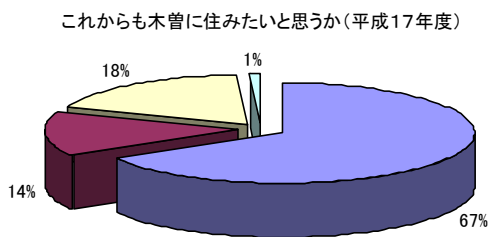


木曽地域の果たす役割(平成9年度)

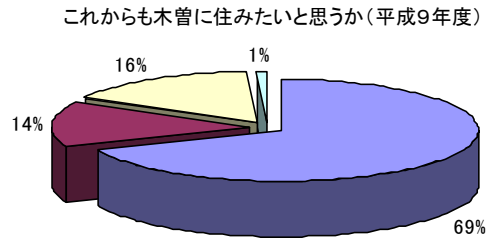


(3)ー1 あなたは木曾地域に住みたいと思いますか

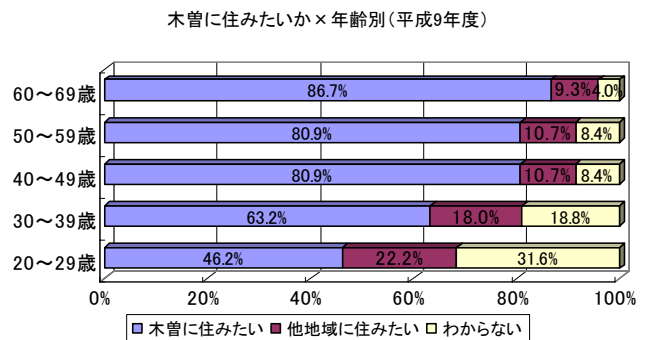
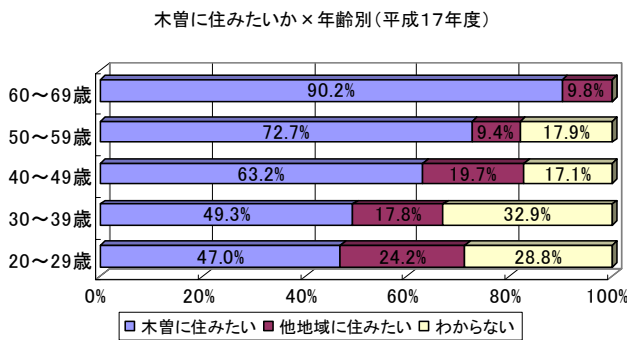
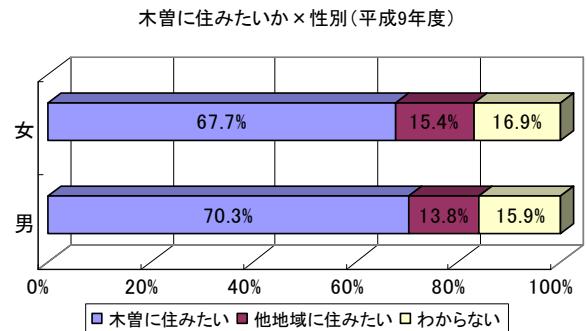
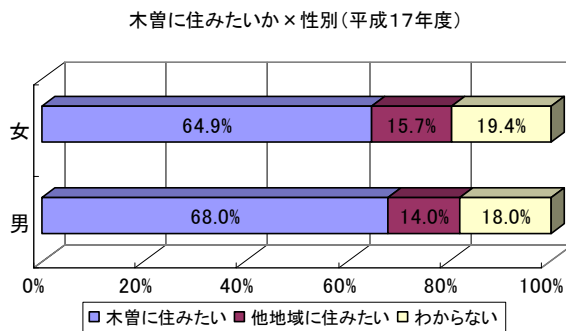
「木曾に住みたい」の回答が66.4%であり、前回調査（69.9%）に比べ、3.5%減少している。一方、「他地域に住みたい」との回答は14.4%であり前回調査と変化はない。



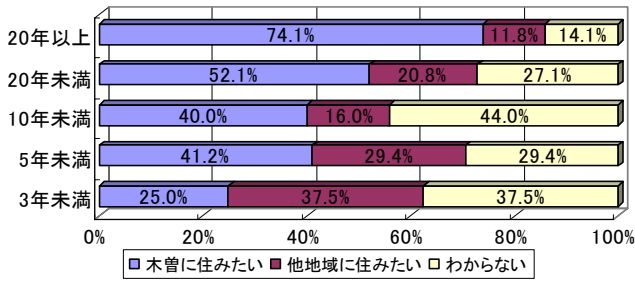
■ 木曾に住みたい ■ 木曾を離れて他地域に住みたい □ わからない □ 無回答



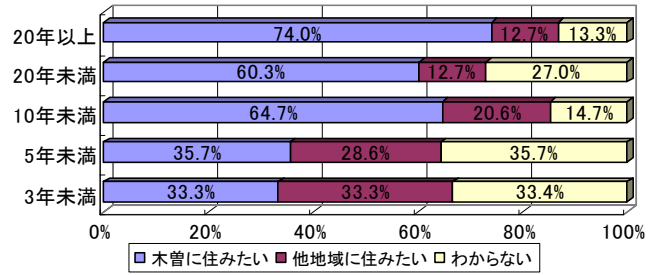
■ 木曾に住みたい ■ 木曾を離れて他地域に住みたい □ わからない □ 無回答



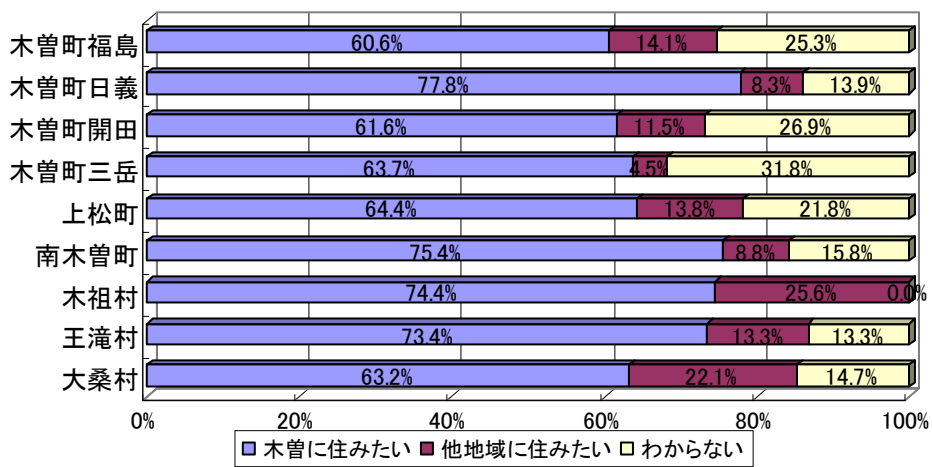
木曾に住みたいか×居住年数別(平成17年度)



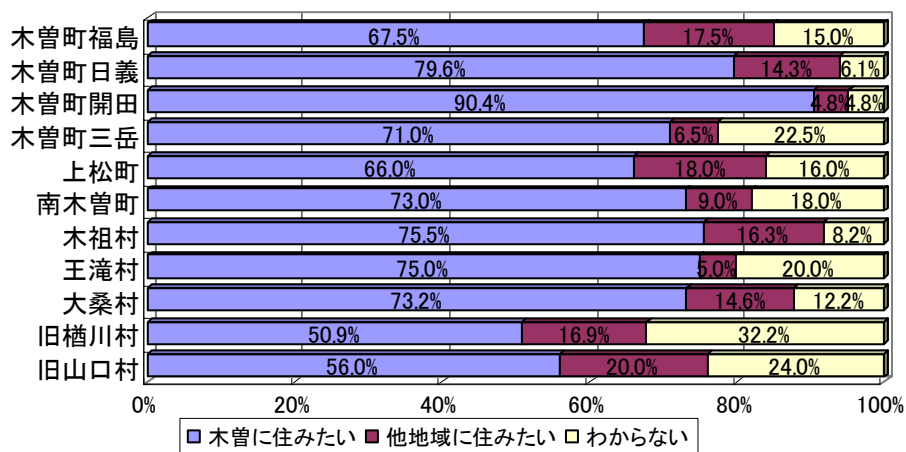
木曾に住みたいか×居住年齢別(平成9年度)



木曾に住みたいか×在住町村別(平成17年度)



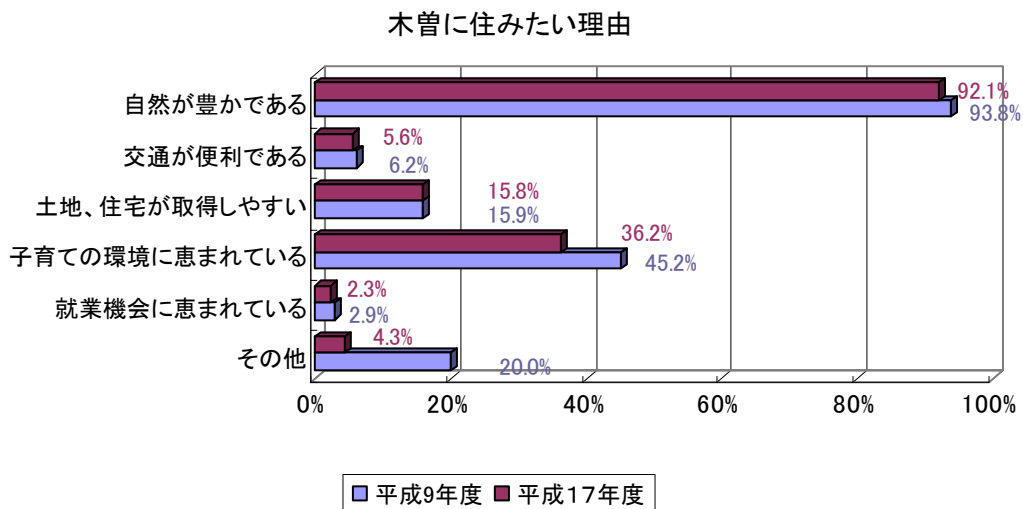
木曾に住みたいか×在住町村別(平成9年度)



(3)－2 (3)－1で「木曾に住みたい」とお答えになったかたにうかがいます。木曾に住みたい主な理由は何ですか。(二つ回答)

「自然が豊かである」(92.1%)が圧倒的に多く、ついで「子育ての環境に恵まれている」(36.2%)となっており、居住環境に関する項目の割合が高い。

	平成17年度		平成9年度	
	計	構成比	計	構成比
自然が豊かである	280	92.1%	426	93.8%
交通が便利である	17	5.6%	28	6.2%
土地、住宅が取得しやすい	48	15.8%	72	15.9%
子育ての環境に恵まれている	110	36.2%	205	45.2%
就業機会に恵まれている	7	2.3%	13	2.9%
その他	13	4.3%	91	20.0%
回答数	304	100.0%	454	100.0%

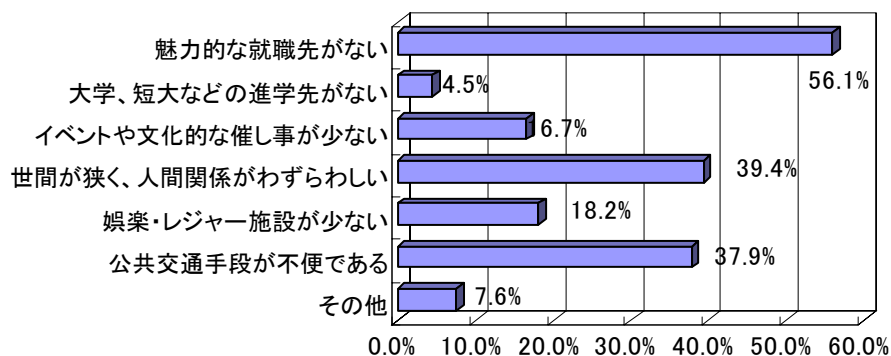


(3)－3 (3)－1で「他地域に住みたい」とお答えになった方にうかがいます。
木曾を離れて他地域に住みたい主な理由は何ですか。(二つ回答)

「魅力的な就職先がない」の回答が 56.1%を占め、次いで「世間が狭く、人間関係がわずらわしい」(39.4%)、「公共交通手段が不便である」(37.9%)の順となっている。

	平成17年度		平成9年度	
	計	構成比	計	構成比
魅力的な就職先がない	37	56.1%	9	9.6%
大学、短大などの進学先がない	3	4.5%	25	26.6%
イベントや文化的な催し事が少ない	11	16.7%	64	68.1%
世間が狭く、人間関係がわずらわしい	26	39.4%	194	206.4%
娯楽・レジャー施設が少ない	12	18.2%	12	12.8%
公共交通手段が不便である	25	37.9%	80	85.1%
その他	5	7.6%	0	0.0%
回答数	66	100.0%	94	100.0%

他地域に住みたい理由



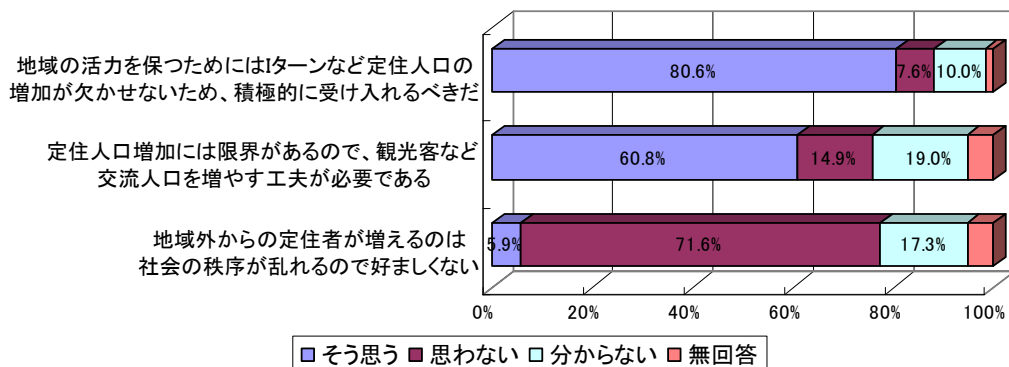
(4) 人口減少が続く中で、地元の若者の定着だけでなく、Iターンによる定住人口の増加や観光客などの交流人口の増加が検討されています。このような人たちの受け入れについてどのようにお考えになりますか？

地域外からの受け入れについて好ましくないと思う人は、5.9%と少なく、何らかの受け入れについて必要であるとの認識がある。受け入れのあり方、定住人口の増加策については、「観光客などの交流人口の増加」よりは「Iターンなどの定住人口の増加」を望む人が多いが、その割合は前回調査に比べ減少している。

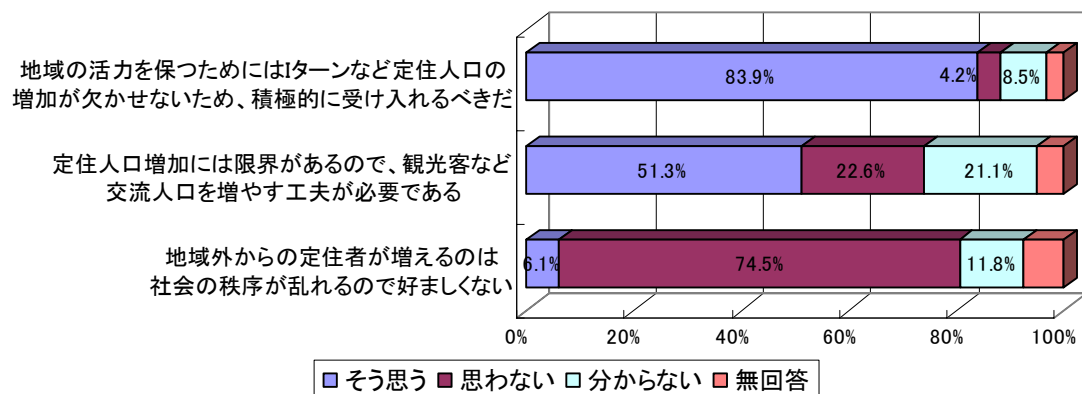
	1	2	3	無回答	合計	
地域の活力を保つためにはIターンなど定住人口の増加が欠かせないため、積極的に受け入れるべきだ	平成17年度	369 80.6%	35 7.6%	46 10.0%	8 1.8%	458 100.0%
	平成9年度	553 83.9%	28 4.2%	56 8.5%	22 3.4%	659 100.0%
定住人口増加には限界があるので、観光客など交流人口を増やす工夫が必要である	平成17年度	278 60.8%	68 14.9%	87 19.0%	24 5.3%	457 100.0%
	平成9年度	338 51.3%	149 22.6%	139 21.1%	33 5.0%	659 100.0%
地域外からの定住者が増えるのは社会の秩序が乱れるので好ましくない	平成17年度	27 5.9%	327 71.6%	79 17.3%	24 5.2%	457 100.0%
	平成9年度	40 6.1%	491 74.5%	78 11.8%	50 7.6%	659 100.0%

1 そう思う 2 思わない 3 わからない

定住人口や交流人口の増加について(平成17年度)



定住人口や交流人口の増加について(平成9年度)

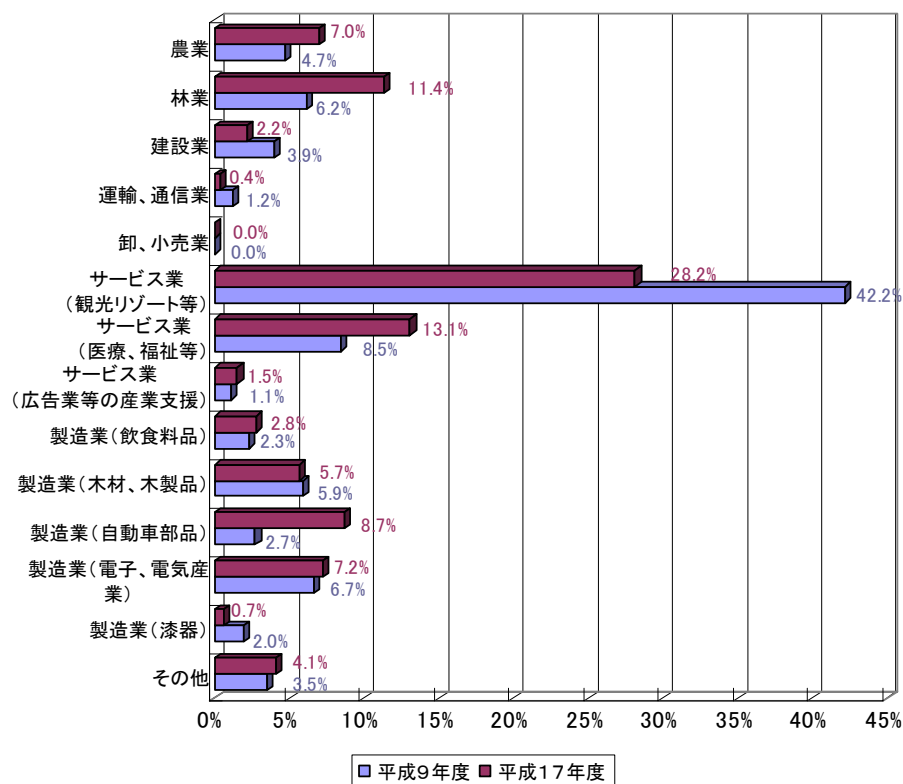


(5) これからの木曾地域を支える産業は何だと思いますか？

観光リゾートなどのサービス業の回答が 28.2%ともっとも多いが、前回調査に比べ大幅に減少している。相対的に医療・福祉などのサービス業（13.1%）や林業（11.4%）との回答が増加している。

	平成17年度		平成9年度	
	計	構成比	計	構成比
農業	32	7.0%	31	4.7%
林業	52	11.4%	41	6.2%
建設業	10	2.2%	26	3.9%
運輸、通信業	2	0.4%	8	1.2%
卸、小売業	0	0.0%	0	0.0%
サービス業(観光リゾート等)	129	28.2%	278	42.2%
サービス業(医療、福祉等)	60	13.1%	56	8.5%
サービス業(広告業等の産業支援)	7	1.5%	7	1.1%
製造業(飲食料品)	13	2.8%	15	2.3%
製造業(木材、木製品)	26	5.7%	39	5.9%
製造業(自動車部品)	40	8.7%	18	2.7%
製造業(電子、電気産業)	33	7.2%	44	6.7%
製造業(漆器)	3	0.7%	13	2.0%
その他	19	4.1%	23	3.5%
無回答	32	7.0%	60	9.1%
総計	458	100.0%	659	100.0%

これからの木曾を支える産業

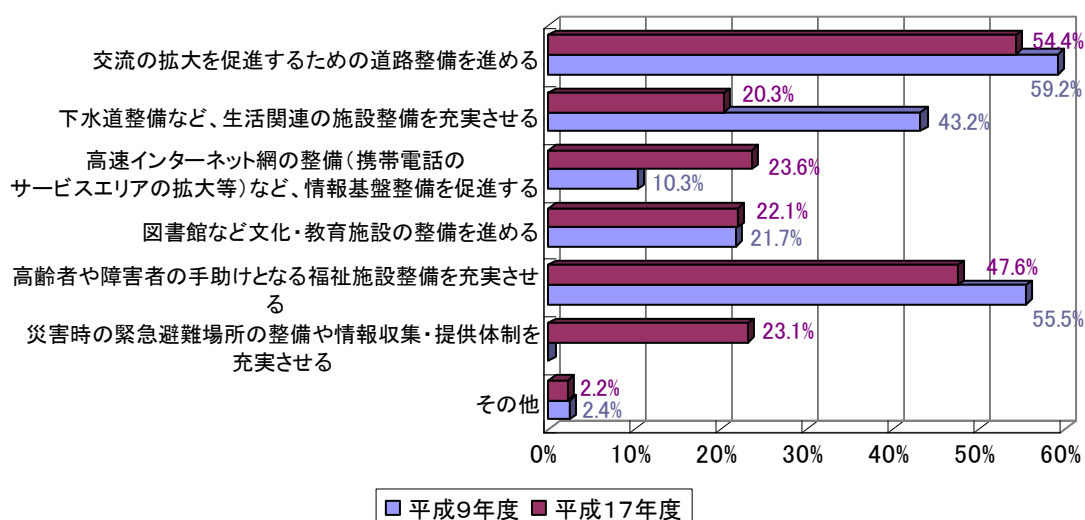


(6) これからの木曾地域の公共施設の整備はどのようにあるべきだと思いますか？（二つ回答）

「道路整備」(54.4%)、「福祉施設整備の充実」(47.6%)の回答した人が半数を占めている。一方、「生活関連の施設整備の充実」(20.3%)が前回調査に比べ大幅に減少しており、逆に「情報基盤整備の促進」(23.6%)との回答が増加している。

	平成17年度		平成9年度	
	計	構成比	計	構成比
交流の拡大を促進するための道路整備を進める	249	54.4%	390	59.2%
下水道整備など、生活関連の施設整備を充実させる	93	20.3%	285	43.2%
高速インターネット網の整備(携帯電話のサービスエリアの拡大等)など、情報基盤整備を促進する	108	23.6%	68	10.3%
図書館など文化・教育施設の整備を進める	101	22.1%	143	21.7%
高齢者や障害者の手助けとなる福祉施設整備を充実させる	218	47.6%	366	55.5%
災害時の緊急避難場所の整備や情報収集・提供体制を充実させる	106	23.1%	-	-
その他	10	2.2%	16	2.4%
回答数	458	100.0%	659	100.0%

公共施設の整備について

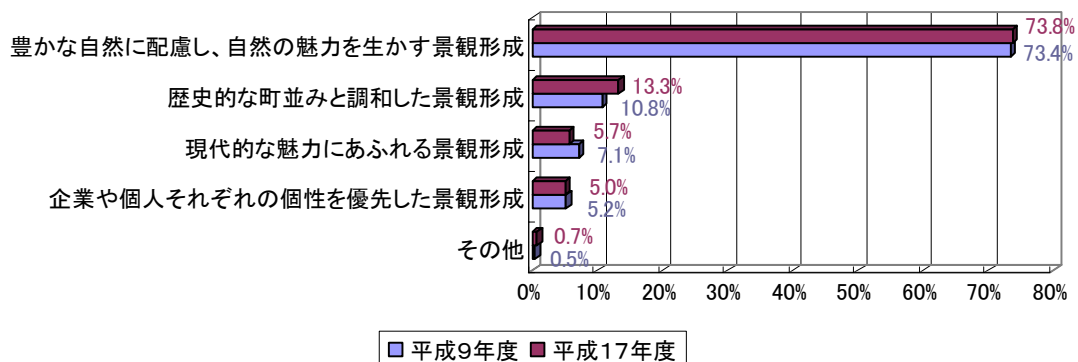


(7) これからの木曽地域の景観形成はどのようにあるべきだと思いますか？

73.8%の人が「豊かな自然に配慮し、自然の魅力を生かす景観形成」を望んでおり、他の項目よりも圧倒的に高くなっている。一方、「歴史的な町並みと調和した景観形成」については、木曽地域には妻籠や奈良井宿といった宿場町があるのに関わらず、すでに景観形成がなされているためか、多くの回答は得られなかった。

	平成17年度		平成9年度	
	計	構成比	計	構成比
豊かな自然に配慮し、自然の魅力を生かす景観形成	338	73.8%	484	73.4%
歴史的な町並みと調和した景観形成	61	13.3%	71	10.8%
現代的な魅力にあふれる景観形成	26	5.7%	47	7.1%
企業や個人それぞれの個性を優先した景観形成	23	5.0%	34	5.2%
その他	3	0.7%	3	0.5%
無回答	7	1.5%	20	3.0%
合計	458	100.0%	659	100.0%

景観形成について

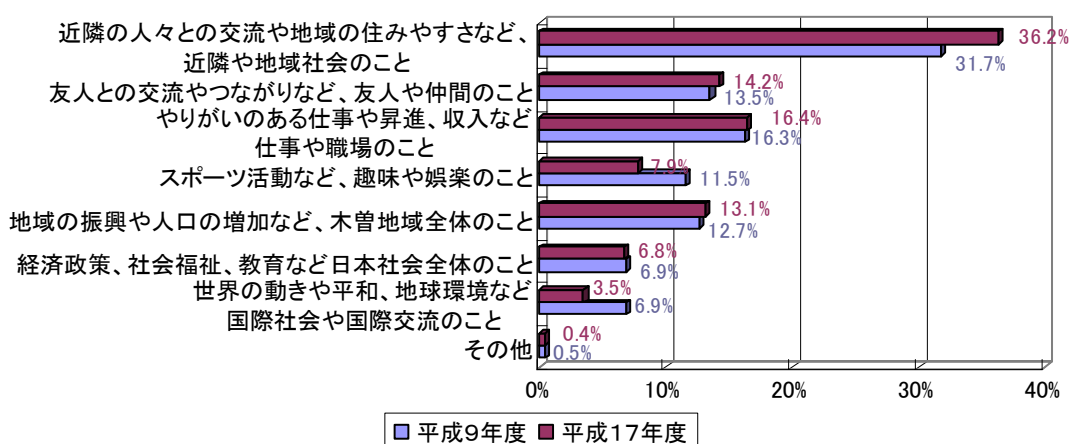


(8) あなたはこれからの生活の中で、家族以外のことで何を大切に考えていますか？

「近隣や地域社会のこと」(36.2%)、「仕事や職場のこと」(16.4%)、「友人や仲間のこと」(14.2%)の順となっており、身近な事柄について大切に考えていることが分かる。

	平成17年度		平成9年度	
	計	構成比	計	構成比
近隣の人々との交流や地域の住みやすさなど、 近隣や地域社会のこと	166	36.2%	202	31.7%
友人との交流やつながりなど、友人や仲間のこと	65	14.2%	86	13.5%
やりがいのある仕事や昇進、収入など 仕事や職場のこと	75	16.4%	104	16.3%
スポーツ活動など、趣味や娯楽のこと	36	7.9%	73	11.5%
地域の振興や人口の増加など、木曾地域全体のこと	60	13.1%	81	12.7%
経済政策、社会福祉、教育など日本社会全体のこと	31	6.8%	44	6.9%
世界の動きや平和、地球環境など 国際社会や国際交流のこと	16	3.5%	44	6.9%
その他	2	0.4%	3	0.5%
無回答	7	1.5%	22	0.0%
合計	458	100.0%	659	100.0%

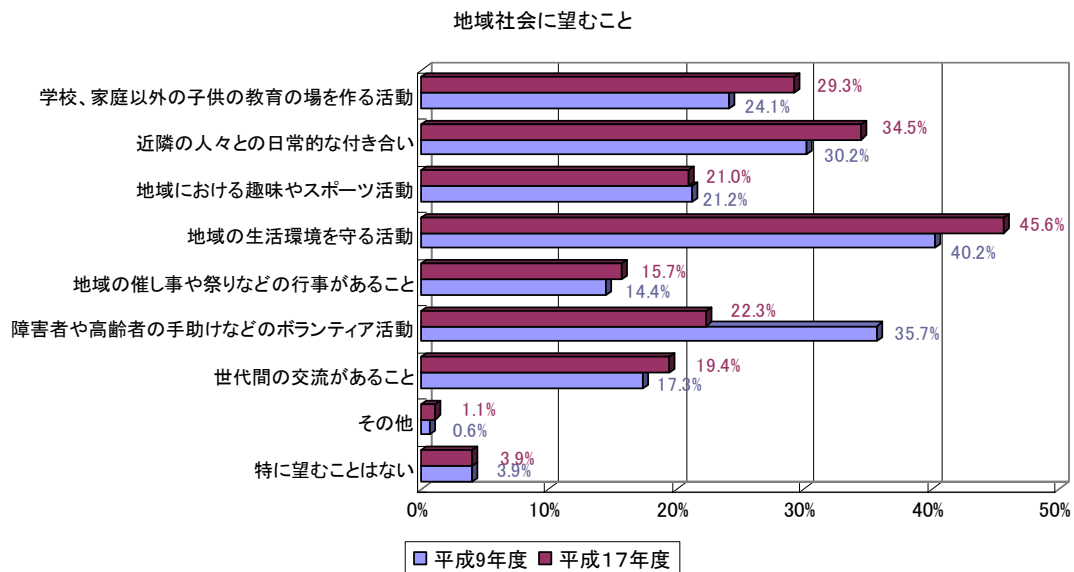
これからの生活で何が大切か



(9) 地域社会は最小の共同体として、住民の日常生活に重要な役割を果たしています。あなたは地域社会に対して何を希望しますか？（二つ回答）

「地域の生活環境を守る活動」（45.6%）、「近隣の人々との日常的な付き合い」（34.5%）が多くの回答を得ており、地域社会の結束が非常に強いことが伺われる。

	平成17年度		平成9年度	
	計	構成比	計	構成比
学校、家庭以外の子供の教育の場を作る活動	134	29.3%	159	24.1%
近隣の人々との日常的な付き合い	158	34.5%	199	30.2%
地域における趣味やスポーツ活動	96	21.0%	140	21.2%
地域の生活環境を守る活動	209	45.6%	265	40.2%
地域の催し事や祭りなどの行事があること	72	15.7%	95	14.4%
障害者や高齢者の手助けなどのボランティア活動	102	22.3%	235	35.7%
世代間の交流があること	89	19.4%	114	17.3%
その他	5	1.1%	4	0.6%
特に望むことはない	18	3.9%	26	3.9%
回答数	458	100.0%	659	100.0%

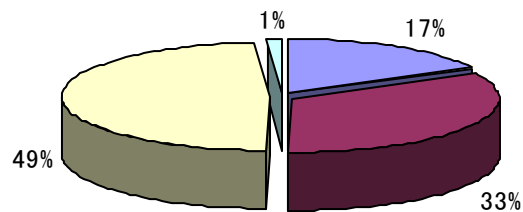


(10)－1 あなたはボランティア活動をしたことがありますか、あるいは過去にしていたことがありますか？

「現在活動している」が17.2%、「過去に活動していたことがある」が33.0%と、活動経験のある人が50.2%と半数に達しており、木曾地域の住民はボランティアに対して関心が高いことが伺える。

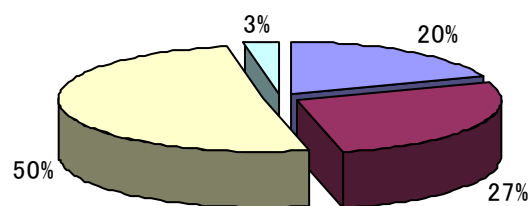
	平成17年度		平成9年度	
	計	構成比	計	構成比
現在活動をしている	79	17.2%	129	19.6%
過去に活動していたことがある	151	33.0%	177	26.9%
現在も過去も活動したことがない	223	48.7%	335	50.8%
無回答	5	1.1%	18	2.7%
計	458	100.0%	659	100.0%

現在ボランティア活動をしているか(平成17年度)



■ 現在活動をしている ■ 過去に活動していたことがある
□ 現在も過去も活動したことがない □ 無回答

現在ボランティア活動をしているか(平成9年度)



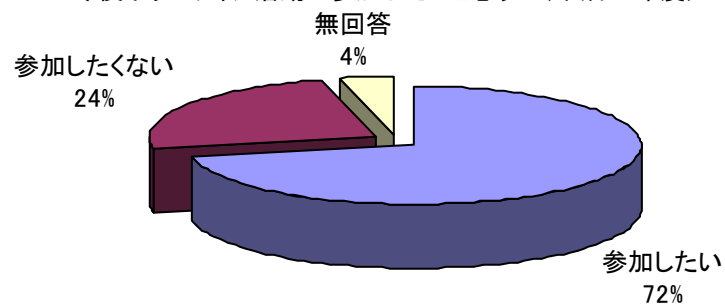
■ 現在活動をしている ■ 過去に活動していたことがある
□ 現在も過去も活動したことがない □ 無回答

(10)－2 今後ボランティアに参加したいと思えますか？

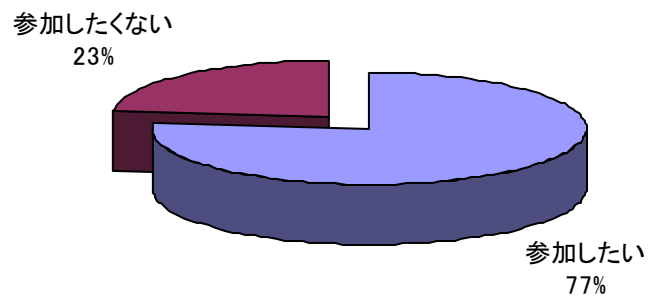
71.6%の人が「参加したい」と回答しており、この質問においても木曾地域の住民はボランティアに対して関心が高いことが分かる。

	平成17年度		平成9年度	
	計	構成比	計	構成比
参加したい	328	71.6%	477	72.4%
参加したくない	112	24.5%	145	22.0%
無回答	18	3.9%	37	5.6%
計	458	100.0%	659	100.0%

今後ボランティア活動に参加したいと思うか(平成17年度)



今後ボランティア活動に参加したいと思うか(平成9年度)

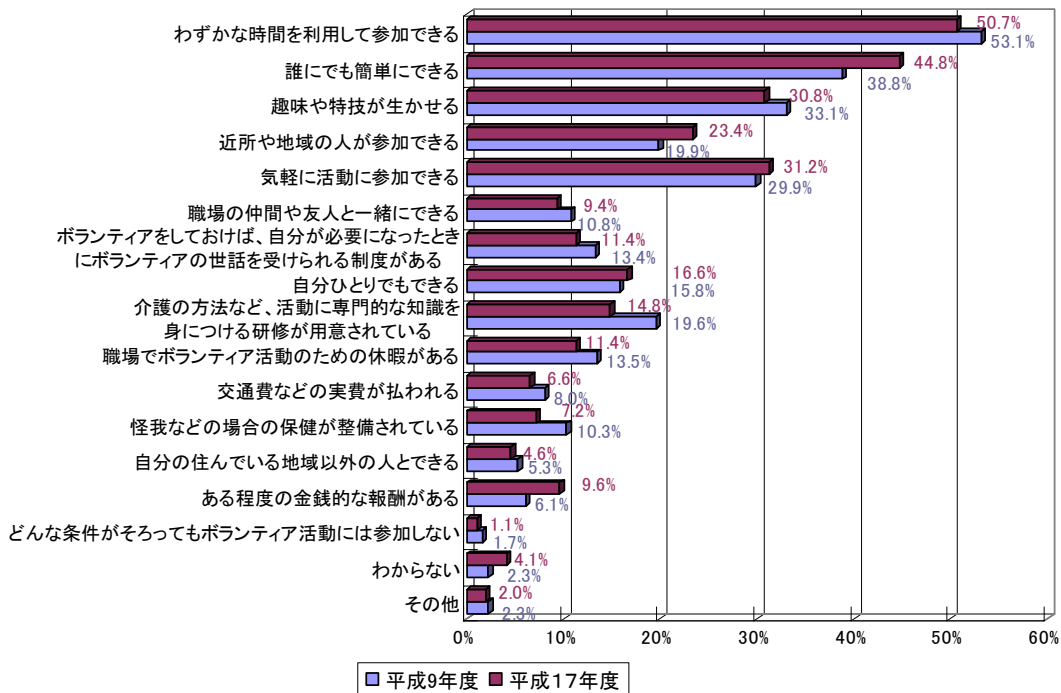


(11) あなたはボランティア活動が盛んになるには、どのような環境を整えればいいと思いますか？（3個回答）

「わずかな時間を利用して参加できる」（50.7%）、「誰にでも簡単にできる」（44.8%）、「気軽に活動に参加できる」（31.2%）が上位3位を占めており、「いつでもどこでも」という意識が高いことが分かる。

	平成17年度		平成9年度	
	計	構成比	計	構成比
わずかな時間を利用して参加できる	232	50.7%	350	53.1%
誰にでも簡単にできる	205	44.8%	256	38.8%
趣味や特技が生かせる	141	30.8%	218	33.1%
近所や地域の人に参加できる	107	23.4%	131	19.9%
気軽に活動に参加できる	143	31.2%	197	29.9%
職場の仲間や友人と一緒にできる	43	9.4%	71	10.8%
ボランティアをしておけば、自分が必要になったときにボランティアの世話を受けられる制度がある	52	11.4%	88	13.4%
自分ひとりでもできる	76	16.6%	104	15.8%
介護の方法など、活動に専門的な知識を身につける研修が用意されている	68	14.8%	129	19.6%
職場でボランティア活動のための休暇がある	52	11.4%	89	13.5%
交通費などの実費が払われる	30	6.6%	53	8.0%
怪我などの場合の保健が整備されている	33	7.2%	68	10.3%
自分の住んでいる地域以外の人とできる	21	4.6%	35	5.3%
ある程度の金銭的な報酬がある	44	9.6%	40	6.1%
どんな条件がそろってもボランティア活動には参加しない	5	1.1%	11	1.7%
わからない	19	4.1%	15	2.3%
その他	9	2.0%	15	2.3%
回答数	458	100.0%	659	100.0%

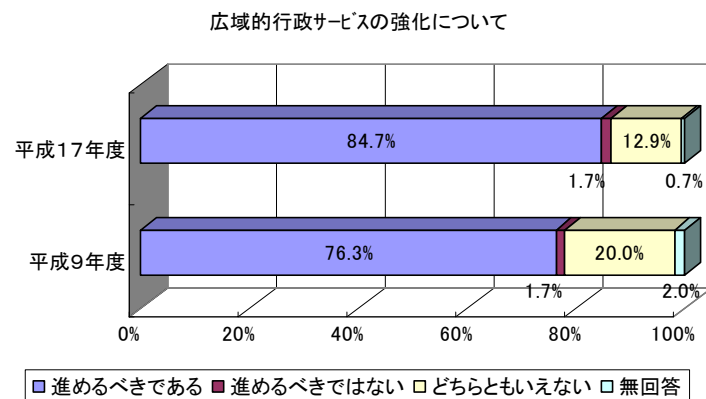
ボランティア活動の促進に必要な環境



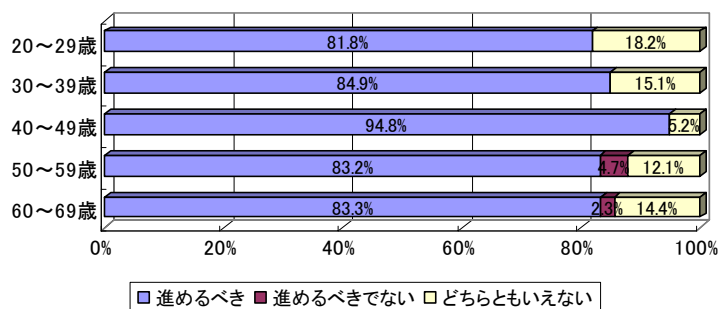
(12) より便利で効率的な行政運営や地方分権の受け皿として、広域行政の強化が話題となっています。あなたは、行政サービス全般について、町村の枠を超えた広域的な取り組みを強化したほうがいいと思いますか？

84.7%の人が「進めるべきである」と回答しており、町村合併などの影響から前回調査に比べ約8%増加している。

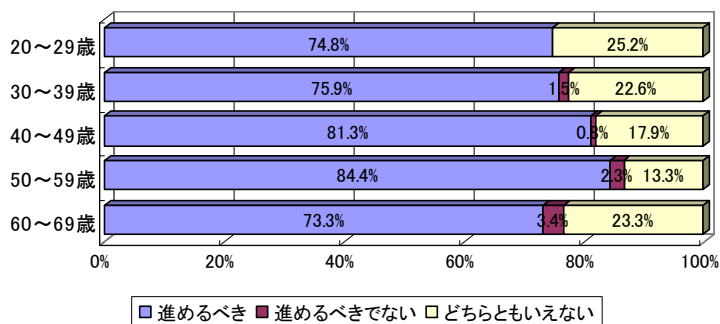
	平成17年度		平成9年度	
	計	構成比	計	構成比
進めるべきである	388	84.7%	503	76.3%
進めるべきではない	8	1.7%	11	1.7%
どちらともいえない	59	12.9%	132	20.0%
無回答	3	0.7%	13	2.0%
計	458	100.0%	659	100.0%



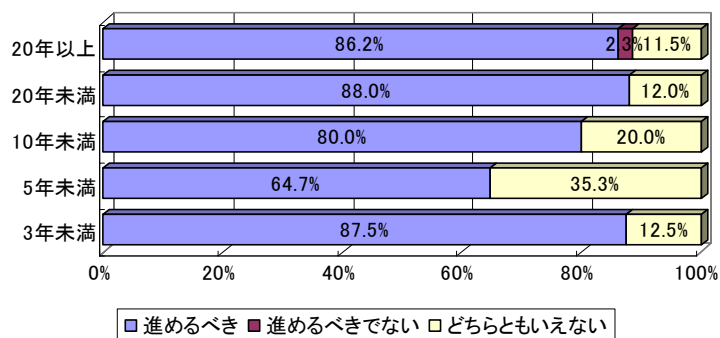
行政サービス×年齢別(平成17年度)



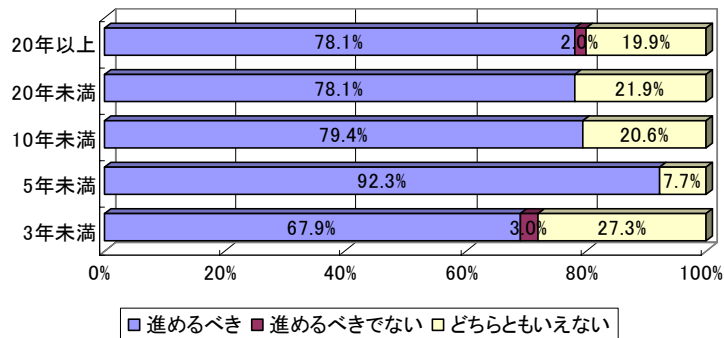
行政サービス×年齢別(平成9年度)



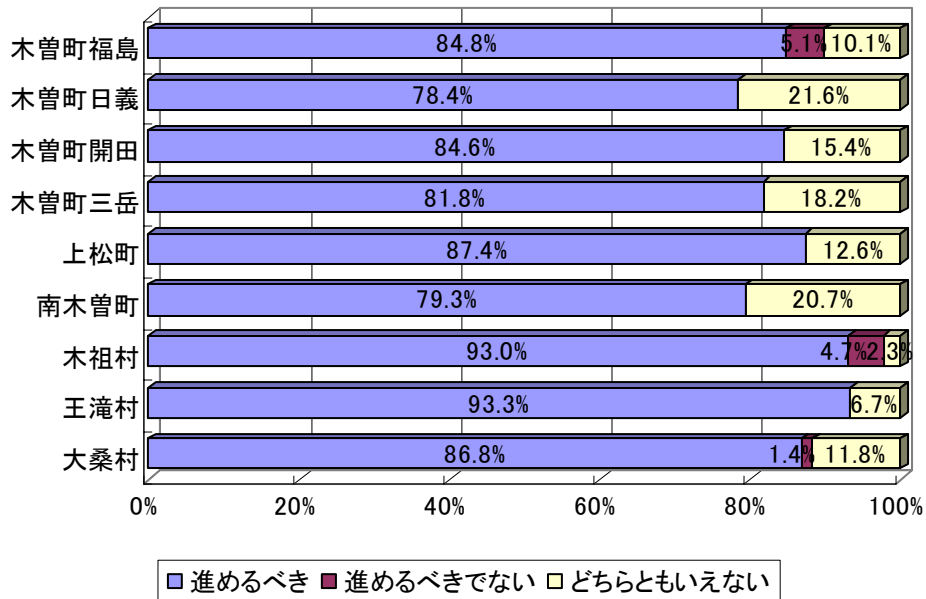
行政サービス×居住年数別(平成17年度)



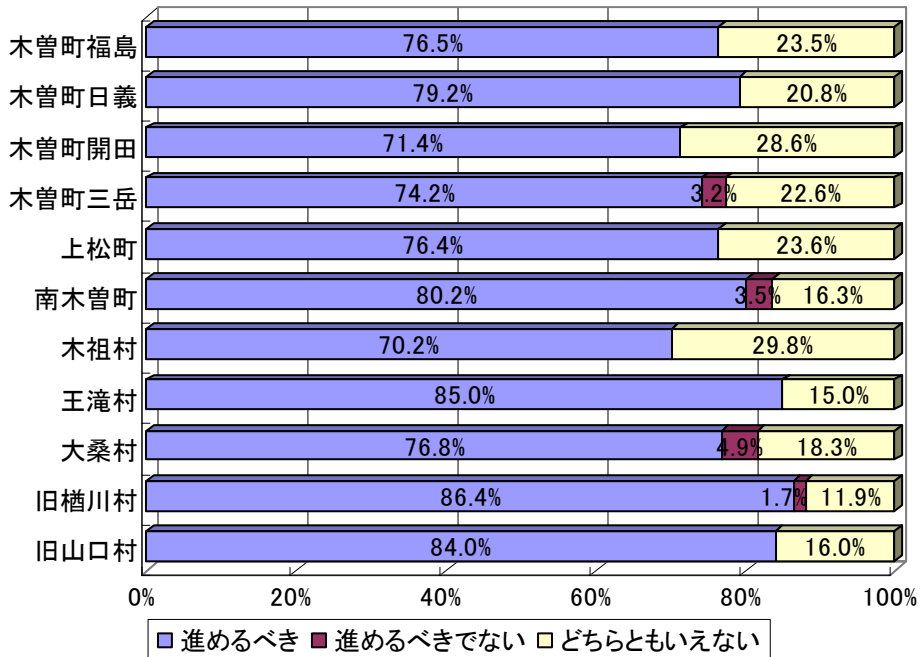
行政サービス×居住年数別(平成9年)



行政サービス×在住町村別(平成17年度)



行政サービス×在住町村別(平成9年)

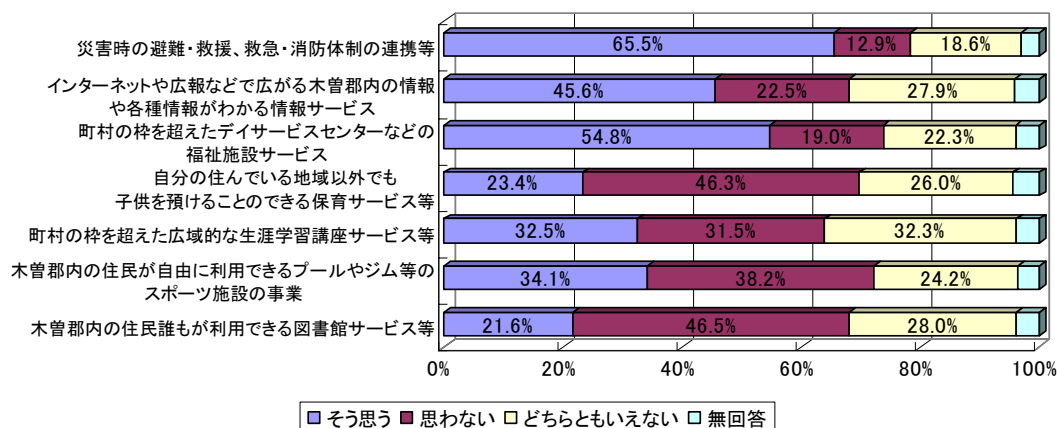


(13) あなたは以下にあげるサービス・事業について、町村の枠を超えて広域的に進めたほうがよいと思いますか？

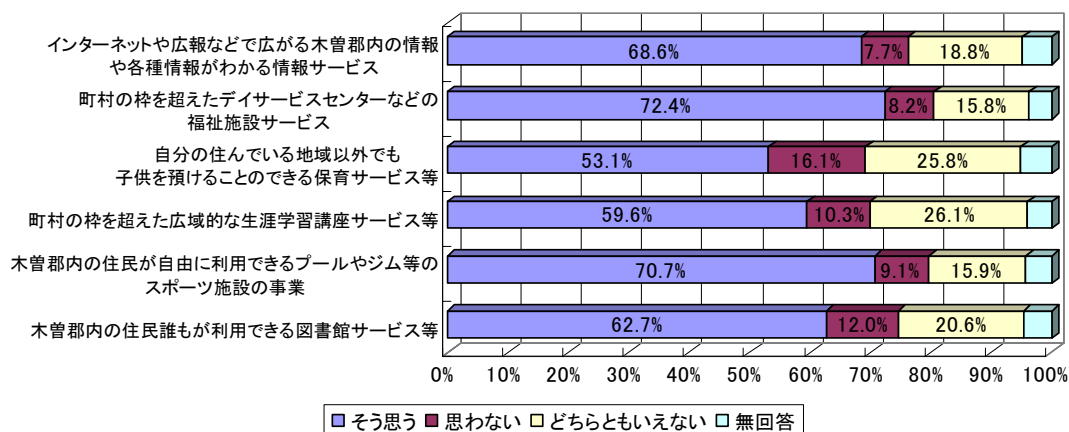
「災害時の避難・救援、救急・消防体制の連携等」を推進するべきと回答した人が 65.5%と最も多く、続いて「福祉施設サービス」、「情報サービス」の順となっている。前回調査では半数を超えていたその他の項目については、すでに広域的に実施されている関係もあり少なくなっている。

		そう思う	思わない	どちらとも いえない	無回答	計
木曽郡内の住民誰もが利用できる図書館サービス等	平成17年度	99 21.6%	213 46.5%	128 28.0%	18 3.9%	458 100.0%
	平成9年度	413 62.7%	79 12.0%	136 20.6%	31 4.7%	659 100.0%
木曽郡内の住民が自由に利用できるプールやジム等のスポーツ施設の事業	平成17年度	156 34.1%	175 38.2%	111 24.2%	16 3.5%	458 100.0%
	平成9年度	466 70.7%	60 9.1%	105 15.9%	28 4.3%	659 100.0%
町村の枠を超えた広域的な生涯学習講座サービス等	平成17年度	149 32.5%	144 31.5%	148 32.3%	17 3.7%	458 100.0%
	平成9年度	393 59.6%	68 10.3%	172 26.1%	26 4.0%	659 100.0%
自分の住んでいる地域以外でも 子供を預けることのできる保育サービス等	平成17年度	107 23.4%	212 46.3%	119 26.0%	20 4.3%	458 100.0%
	平成9年度	350 53.1%	106 16.1%	170 25.8%	33 5.0%	659 100.0%
町村の枠を超えたデイサービスセンターなどの 福祉施設サービス	平成17年度	251 54.8%	87 19.0%	102 22.3%	18 3.9%	458 100.0%
	平成9年度	477 72.4%	54 8.2%	104 15.8%	24 3.6%	659 100.0%
インターネットや広報などで広がる木曽郡内の情報 や各種情報がわかる情報サービス	平成17年度	209 45.6%	103 22.5%	128 27.9%	18 4.0%	458 100.0%
	平成9年度	452 68.6%	51 7.7%	124 18.8%	32 4.9%	659 100.0%
災害時の避難・救援、救急・消防体制の連携等	平成17年度	300 65.5%	59 12.9%	85 18.6%	14 3.0%	458 100.0%
	平成9年度	-	-	-	-	-

各サービス・事業の広域的取り組みについて(平成17年度)



各サービス・事業の広域的取り組みについて(平成9年度)

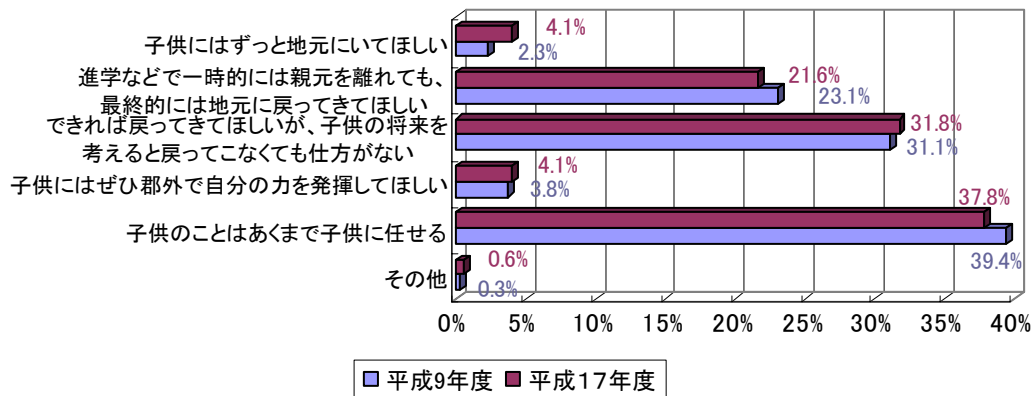


(14) 18歳までのお子さんをお持ちの方にお聞きします。お子さんの進路・将来について、最もあなたの考えに近いものはどれですか？

「子供にはずっと地元においてほしい」(4.1%)、「最終的には地元に戻ってきてほしい」(21.6%)と、地元に残ってほしいと期待する人が全体の4分の1にすぎなかった。

	平成17年度		平成9年度	
	計	構成比	計	構成比
子供にはずっと地元においてほしい	6	4.1%	6	2.3%
進学などで一時的には親元を離れても、最終的には地元に戻ってきてほしい	32	21.6%	61	23.1%
できれば戻ってきてほしいが、子供の将来を考えると戻ってこなくても仕方がない	47	31.8%	82	31.1%
子供にはぜひ郡外で自分の力を発揮してほしい	6	4.1%	10	3.8%
子供のことはあくまで子供に任せる	56	37.8%	104	39.4%
その他	1	0.6%	1	0.3%
総計	148	100.0%	264	100.0%

子供の進路について



4以外を選んだ方にお聞きします。

お子さんが地元に戻ってくるための条件として、どのような条件が整備されればよいと思いますか？

子供の能力を生かせる就職先がある」と回答した人が 69.5%と圧倒的に多く、質問3（3）の結果と同様、木曾地域には魅力的な就職環境が必要である。

	平成17年度		平成9年度	
	計	構成比	計	構成比
子供の能力を生かせる就職先がある	98	69.5%	162	69.5%
魅力的な娯楽や、楽しめる施設がある	3	2.1%	10	4.3%
結婚相手を見つけやすい	1	0.7%	1	0.4%
子供を育てるための教育環境が整っている	10	7.1%	16	6.9%
便利で快適な生活ができる	12	8.5%	37	15.9%
その他	5	3.6%	7	3.0%
無回答	12	8.5%	0	0.0%
総計	141	100.0%	233	100.0%

子供が地元に戻ってくる条件

